



生物多様性 ふじえだ戦略

[2024-2033]



“もったいない” で進める 環境日本一のまち
身近な自然とふれあい 守り 共に生きるまち ふじえだ



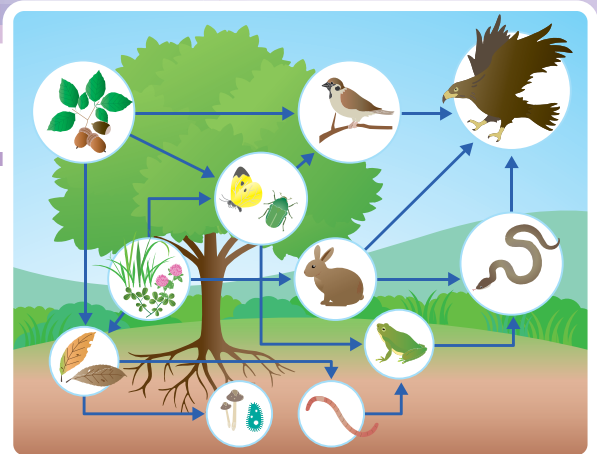
藤枝市
Fujieda City



生物多様性とは？

● 生物の個性とつながり

「生物多様性」とは、生物の豊かな個性とつながりのことをいいます。生命は一つひとつに個性があり、全て直接的・間接的につながりあって生きています。生物多様性を保全していくためには、これらの生物の個性とつながりを保っていく必要があります。



生物のつながり



● 生物多様性のめぐみ

私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わりあう「生態系からのめぐみ」(生態系サービスといい、「自然の寄与」とも呼ばれています。)によって支えられています。

● 生物多様性に迫る4つの危機

現在、生物多様性には4つの危機が迫っているとされています。

第1の危機 開発など人間活動による危機



無計画な土地の開発は、生物の生息・生育環境の損失につながります。

第2の危機 自然に対するはたらきかけの縮小による危機



人が手を入れて整備した里山の管理がされないことにより、竹林が拡大し、土砂崩れの発生などが懸念されます。

第3の危機 人間により持ち込まれたものによる危機



オオキンケイギクなど外来種の分布拡大、化学物質による中小河川の水質汚濁が発生しています。

第4の危機 地球環境の変化による危機



気候変動により洪水の増加が懸念されますが、森林の水源涵養機能で緩和することが期待されます。

生物多様性と藤枝市の関係



生物多様性のめぐみを活かした特産物による産業と暮らし

本市では米、茶、みかん、たけのこ、しいたけ、桐箆笥、羊歯細工など、生物多様性のめぐみを活かした特産物による産業が発達し、私たちの暮らしを支えてきました。



茶



みかん



たけのこ



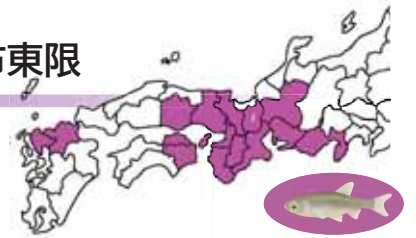
しいたけ



桐箆笥

瀬戸川水系は貴重な生物カワバタモロコの日本の分布東限

日本固有の淡水魚であるカワバタモロコは、本市の瀬戸川水系を日本の分布の東限としており、国や静岡県^{きりたんす}の絶滅危惧種に指定されているほか、静岡県^{しだ}の「指定希少野生動植物」、「種の保存法」の「特定第二種国内希少野生動植物種」にも指定されています。



カワバタモロコの分布域

【資料：令和版せと川物語、日本のレッドデータ検索システム】

市街地に隣接する自然豊かな蓮華寺池公園

蓮華寺池公園は、本市のほぼ中央に位置し、「花・水・鳥・笑顔」がテーマの公園です。四季を通じて、多くの市民が集う憩いの場所であり、春の「藤まつり」などで有名です。市街地に隣接した自然豊かな公園であり、散策路、駐車場、飲食店、トイレなどが整備されていることから、探鳥会などの自然観察や散策など、市内外から多くの人に利用されています。



自然豊かな蓮華寺池公園

市内各地で進むビオトープの創出と自然観察などの実施

「ビオトープ」とは、本来その地域にすむ様々な野生生物が生息することができる空間のことです。市内には、市民の森・ビオトープガーデン、事業所や民間団体で整備しているビオトープがあり、生物の生息・生育環境を形成するとともに、身近な環境教育の場としても活用されています。

また、蓮華寺池公園、つたの細道公園、瀬戸川、藪田川、小田野沢ビオトープなど、市内の様々な場所では自然観察や保護活動が行われ、自然とのふれあい活動の機会が広がっています。



市民の森・ビオトープガーデン



藪田川・カワバタモロコの保全地域



小田野沢ビオトープ

戦略の目標

本市の目指す
将来像

“もったいない” で進める 環境日本一のまち
身近な自然とふれあい 守り 共に生きるまち ふじえだ



自然との共生の上に、現在の私たちを取り巻く環境が形成されており、これからも身近にある自然を大切にし関わりを持ち続けることが、継続した自然環境の保全につながることから、「身近な自然とふれあい 守り 共に生きるまち ふじえだ」とします。

基本方針 1 生物多様性の大切さを理解して行動する



若竹刈り

自然や生物多様性の大切さを教えるとともに、環境情報の発信や自然とのふれあいなどの取組を通して、生物多様性の大切さを理解し、自ら積極的に行動する人を増やしていきます。

| 管理指標 | 2022 年度 | 2033 年度 |
|--------------------------------|---------|---------|
| 「生物多様性」の言葉の認知度【市民】 | 33.2% | 60.0% |
| 環境学習講座の年間参加者の割合 (総人口に対する割合) | 1.43% | 1.98% |

基本方針 2 豊かな生態系を回復して活かす



青池の小川と桜

森林や農地、水辺、市街地など失われつつある生態系を回復し、質を高め、互いにつなげていくことで地域の活力としていきます。

| 管理指標 | 2022 年度 | 2033 年度 |
|---------------|------------------|------------------------|
| 藤枝版ビオトープの登録面積 | - m ² | 345,800 m ² |
| 汚水処理人口普及率 | 79% | 86% |

基本方針 3 地域固有の生物を守り増やす

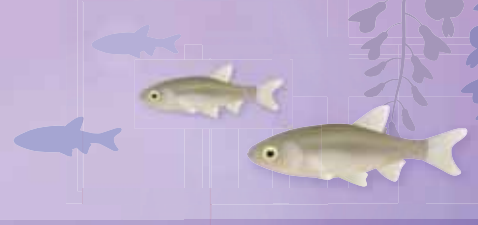


カワバタモロコ

本市に生息・生育する生物種、種の遺伝子の多様性を確保するため、生物の調査・情報収集、絶滅の可能性のある種の保全と外来種の防除、適正なペットの飼養や遺伝的かく乱の防止を行い、地域固有の生物を守り増やしていきます。

| 管理指標 | 2022 年度 | 2033 年度 |
|--|---------|---------|
| 地域固有の生物が守られている 藤枝版ビオトープの登録地点数 | - 地点 | 13 地点 |
| 市内の野生生物の絶滅種数 (静岡県版レッドリスト 2019 に掲載されている) | 1 種 | 1 種 |

戦略の体系

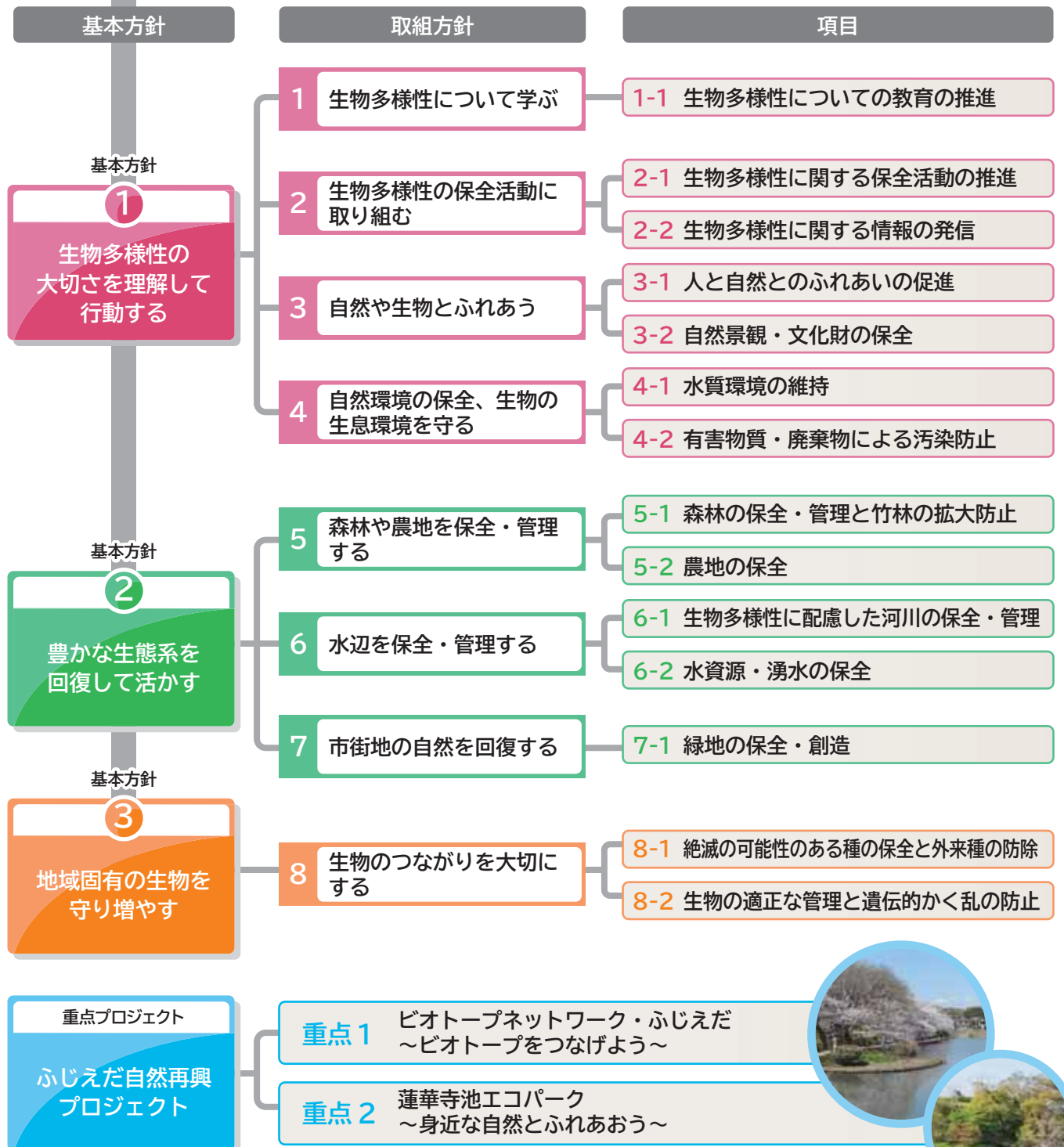


2050年ビジョン

自然と共生する社会（生物多様性国家戦略のビジョンを共有）

目指す将来像

“もったいない”で進める 環境日本一のまち
身近な自然とふれあい 守り 共に生きるまち ふじえだ



みんなで取り組もう！

行政の取組



市民の取組



事業者の取組



1 生物多様性について学ぶ



- 体験を通じた環境教育を実施します。



- 家庭において、積極的な生物多様性の教育・学習に努めます。



- 従業員の生物多様性に対する意識向上に努めます。

2 生物多様性の保全活動に取り組む



- 市民団体が行う生物多様性に関する取組を支援します。



- 環境ラベルなどを参考にして生物多様性に配慮した製品の購入に努めます。



- 事業活動と生物多様性についての関係や影響を適切に把握・開示し、保全対策に努めます。

3 自然や生物とふれあう



- 自然に親しむ体験イベントを開催します。



- 自然に親しむ体験イベントへの参加に努めます。



- ハイキングコースなどの自然を体感できる場所の整備や維持管理に協力します。

4 自然環境の保全、生物の生息環境を守る



- 事業所などからの排水の状況を把握するため、水質調査を行います。



- 油汚れは紙でふき取り、洗剤は適量使用に努めます。



- 使い捨てプラスチック製品の使用抑制に努め、6Rの推進に努めます。

行政の取組



市民の取組



事業者の取組



5 森林や農地を保全・管理する



- 竹林の伐採などにより、竹林対策を推進します。



- 森に親しむイベントや森林管理のボランティア活動への参加に努めます。



- 土地の利用、開発について生物多様性に与える影響を把握し、回避・低減に努めます。

6 水辺を保全・管理する



- 湧水池において、市民が親しめる場所となるよう、周辺管理を行います。



- 節水を心掛け、水を大切にします。



- 河川清掃活動への参加に努めます。

7 市街地の自然を回復する



- 花と緑にあふれる美しい地域づくりを推進します。



- グリーンカーテンやガーデニングなど身近にできる緑化に努めます。

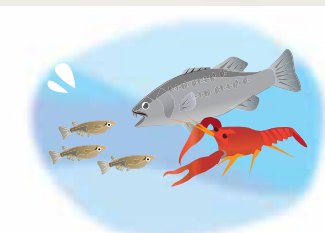


- 敷地内の緑地や池など、身近な生物の生息環境の保全に努めます。

8 生物のつながりを大切にする



- 特定外来生物に関する情報収集及び提供を行います。



- 外来種の繁殖拡大防止や防除実施に努めます。



- 開発事業や土地の所有管理における絶滅危惧種や地域固有種に配慮します。

ふじえだ自然再興プロジェクト

「ネイチャーポジティブ（自然再興）」^{*1}の実現のため、本市では「ふじえだ自然再興プロジェクト」として、2つの取組を重点プロジェクトとして位置づけ、重点的に推進していきます。

^{*1}: 2030（令和12）年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる国際的な目標のことをいいます。

重点1

ビオトープネットワーク・ふじえだ ～ビオトープをつなげよう～



藤枝版ビオトープ登録制度・ビオトープマップづくり、ビオトープによる貴重種の保護増殖などにより、生物の生息・生育環境を今よりも豊かにします。

- 藤枝版ビオトープ登録制度の創設
- 登録されたビオトープ情報の発信
- ビオトープ保全活動への支援
- ビオトープマップの作成と公開
- 地域固有の遺伝子に配慮しながら、ビオトープにおける貴重種の保護増殖の推進

重点2

蓮華寺池エコパーク ～身近な自然とふれあおう～



市民の憩いの場である蓮華寺池公園において、環境教育や自然とのふれあいを促進することにより、生物多様性を身近に感じ、生物多様性に関心のある人を増やしていきます。

- 自然観察マップやガイドブックの作成
- 自然環境や生物多様性に関する展示や掲示
- 市のホームページに自然環境や生物多様性をPRする特設サイトの開設
- 郷土種の植栽、外来種の防除など、地域の生物多様性の保全

藤枝版ビオトープとは

本来「ビオトープ」とは、その地域にすむ様々な野生生物の生息・生育空間のことをいいます。そのためビオトープには、森林や農用地、河川など自然にある生物の生息・生育空間も含まれることとなり、それらを含めて広く生態系を近くで感じることができる場所を「藤枝版ビオトープ」と名づけています。

近年、「30by30 目標^{*2}」に向けて自然公園など法令による保護地域だけではなく、OECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）が注目されています。環境省では、OECMを「自然共生サイト」として登録する制度がスタートしました。本市でも、OECMに貢献する「自然共生サイト」への登録への機運を高めるため、「藤枝版ビオトープ登録制度」の創設を予定しています。

^{*2}: 2030（令和12）年までに陸域と海域の30%以上を保全する目標です。現在、日本では陸域20.5%、海域13.3%が保護地域として保全されています。



生物多様性ふじえだ戦略 概要版 2024（令和6）年3月発行

藤枝市環境水道部環境政策課

〒426-0026 藤枝市岡出山 2-15-25 TEL：054-643-3183 FAX：054-631-9083

URL：https://www.city.fujieda.shizuoka.jp

※「生物多様性ふじえだ戦略」の本編は、藤枝市のホームページでご覧ください。



この冊子は環境に配慮した FSC® 認証紙と 植物油インキを使用しています。